



だて正夢

# 登米地域の稲作通信 第2号

令和8年6月15日発行

宮城県米づくり推進登米地方本部

宮城県登米農業改良普及センター

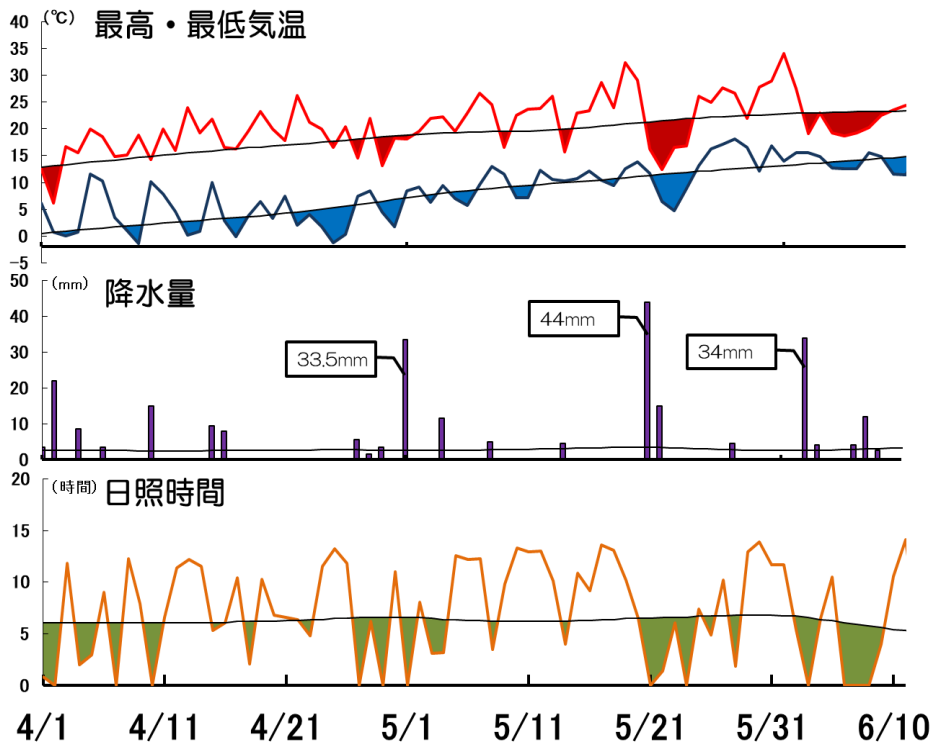
Tel : 0220-22-6127

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>



## 【気象経過】

観測地点：米山アメダス



播種から育苗期間にあたる4月の平均気温は、平年よりも3.1℃高く、日照時間と降水量ともに平年並みとなりました。

田植えの時期から活着期にあたる5月の平均気温は平年よりも3.5℃高く、日照時間も126%と多くなりました。また、6月上旬(6/1~6/10時点)の平均気温は1.5℃高くなりましたが、日照時間は79%と少なくなりました。

【気象経過(旬別平年差・比)】

		4月			5月			6月		
		平均気温 (℃)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)	平均気温 (℃)	日照時間 (時間)	降水量 (mm)
上旬	本年値	9.9	46.8	52.5	15.1	78.1	50.0	17.9	48.7	56.5
	平年値	7.5	61.0	25.1	11.0	63.7	27.4	16.4	61.5	27.9
	平年差・比	2.5	77%	209%	4.2	123%	182%	1.5	79%	203%
中旬	本年値	11.8	82.7	17.5	16.8	103.5	4.5			
	平年値	7.5	61.4	24.9	13.1	63.2	32.1			
	平年差・比	4.3	135%	70%	3.7	164%	14%			
下旬	本年値	11.6	71.5	10.5	17.4	76.9	63.5			
	平年値	9.0	64.8	27.4	14.5	80.1	36.4			
	平年差・比	2.5	110%	38%	2.8	96%	174%			
月	本年値	11.1	201.0	80.5	16.5	252.0	118.0			
	平年値	8.0	187.2	77.4	13.0	200.5	92.5			
	平年差・比	3.1	107%	104%	3.5	126%	128%			

# 【移植栽培】

## 1 生育状況

### 【管内の田植え状況調査】

地帯区分	田植え					
	田植始期		田植盛期		田植終期	
	令和8年	平年	令和8年	平年	令和8年	平年
北部平坦	5月6日 (+1)	5月5日	5月14日 (+1)	5月13日	5月24日 (+3)	5月21日
三陸沿岸	5月8日 (+2)	5月6日	5月10日 (-4)	5月14日	5月24日 (+1)	5月23日
<b>管内平均</b>	<b>5月6日 (+1)</b>	<b>5月5日</b>	<b>5月14日 (+1)</b>	<b>5月13日</b>	<b>5月24日 (+3)</b>	<b>5月21日</b>

※田植始期・盛期・終期は、それぞれ5%、50%、95%田植が終了した日。

※平年値は、過去5か年(令和3~7年)の平均値。( )内は平年差。

管内の田植えは、始期(5%)は5月6日、盛期(50%)は5月14日、終期(95%)は5月24日で、いずれも平年より遅くなりました。5月上旬に雨や風により田植え作業を延期したと考えられ、一部では植え傷みの発生が見られました。

### 【水稻生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽植密度(株/㎡)	移植日	6月10日			
						草丈(cm)	莖数(本/㎡)	葉色(GM)	葉数(枚)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	前年比・差 -9日 平年比・差 -4日	24.7 108% 93%	122 89% 102%	35.9 3.0 2.0	4.9 0.3 0.3
2	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	15.4	前年比・差 +8日 平年比・差 +9日	28.6 95% 95%	154 115% 119%	38.4 2.2 1.3	6.6 — —
3	にじのきらめき	高温対策技術展示ほ	中田町	15.8		30.4	237	40.7	6.2
4	ひとめぼれ	古川農試 5/11植え	古川農試	18.5	— 平年比・差 —	24.9 104%	297 109%	40.6 0.2	6.4 -0.1
5	ひとめぼれ	古川農試 5/20植え	古川農試	18.5	— 平年比・差 —	20.8 94%	116 73%	30.6 -3.2	4.8 -0.7
6	ひとめぼれ	古川農試 5/29植え	古川農試	18.5	— 平年比・差 —	15.9 —	74 —	— —	3.5 —

※栽培タイプ「Cタイプ」：農薬・化学肥料節減栽培

(慣行栽培の5割減：農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下)

※平年値は、過去5か年(令和3年~令和7年)の平均値。

※古川農試5月29日植えは平年値なし。

管内の6月10日現在の生育調査結果は、ひとめぼれ(中田町)では平年に比べて草丈が短く、莖数と葉数が平年並、葉色は概ね平年並となっています。ササニシキ(豊里町)では平年に比べて草丈が短く、莖数が多く、葉色は概ね平年並となっています。

これは田植えから6月上旬までの気温が平年よりも高くなった日があったためと考えられますが、今後の気温上昇により肥料成分の溶出や有機物の分解が進むのにもとない、莖数の増加、葉色の上昇が見込まれます。

古川農業試験場5月11日植えひとめぼれでは平年に比べて草丈が長く、莖数が多く、葉

色と葉数は平年並みとなっています。5月20日植えひとめぼれでは平年に比べて、草丈が短く、茎数が少なく、葉色が淡く、葉数も少なくなっています。

## 【直播栽培】

### 1 生育状況

【水稻生育調査結果(乾田直播)】 令和8年度から調査地点を豊里町に変更しています。

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	調査結果	苗立本数 (本/m <sup>2</sup> )	6月10日	
							草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )
1	ササニシキ	フウ耕 グレート 体系	豊里町 (新設)	4月20日	令和8年 調査値	145.6	22.9	204
2	【参考】 ササニシキ	フウ耕 グレート 体系	米山町 (5か年平均値)	4月25日	R3~7年 の平均値	79.4	26.5	95

※令和8年度から調査地点を豊里町に変更しています。

※2の【参考】ササニシキ(米山町)は令和3~7年の5か年間の平均値を使用しています。

6月10日現在、ササニシキの苗立本数は145.6本で、出芽は良好となりました。草丈22.9cm、茎数204本/m<sup>2</sup>と順調に生育しています。

## 2 今後の管理

### (1) 水管理

○一部のほ場で、藻類や表層剥離の発生がみられます。

イネの生育に悪影響を及ぼすため、早期の発見と対策をお願いします。

#### 1. 発生によるイネへの悪影響

- ・生育の遅れ： 日光を遮るため、水温や地温が下がり、生育が遅れます。
- ・イネの倒伏： 風で吹き寄せられると、生育初期のイネに絡みついて倒伏させます。
- ・生育の抑制： 特に深水条件では、イネ全体に覆い被さって成長を妨げます。

#### 2. 発生の主な原因

- ・養分の過多： 代かき直後の施肥(特に窒素やリン酸)により、水中の栄養が多すぎる。
- ・気温・水温の上昇： 晴天が続き、水温が高くなると急激に増殖します。
- ・浅水管理： 水が浅く、底まで日光が届きやすい環境も発生を促します。

#### 3. 今すぐできる対策

- ・落水・水の入替え(一度水を落として(落水)藻を土壌に密着させて消滅させるか、きれいな水に入れ替えて水中の栄養濃度を下げます。※イネが小さく、風が強い日は倒伏に注意してください。
- ・適切な水深管理(イネがまだ小さい時期は、藻が絡みついて沈まないよう、適切な水深(深すぎず浅すぎず)を維持します。
- ・除草剤(藻類対応)の散布(発生初期であれば、藻類や表層剥離に効果のある除草剤を散布することで、拡大を抑えることができます。)

○気温の上昇とともに土壌の還元が進み、ガスの発生しているほ場が見られます。

根の活力を落とさないよう、以下の対策を徹底してください。

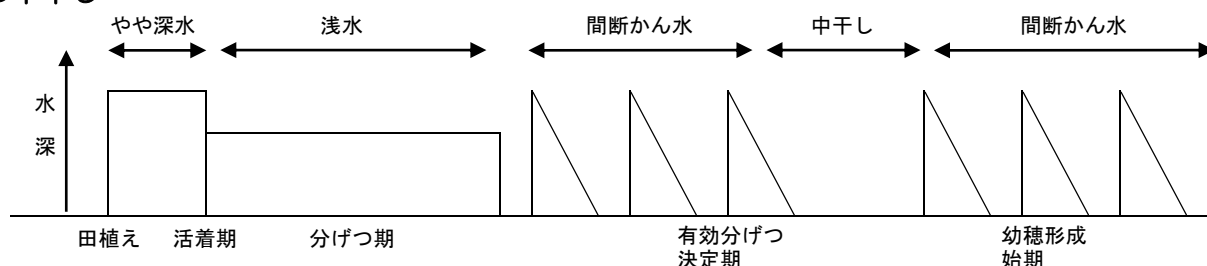
【特に対策が必要な田んぼ】

- ・稲わらをすき込んだほ場
- ・排水不良田(水はけの悪い田んぼ)

【効果的な対策】

- ・一時落水：一度水を抜き、土壤中に十分な酸素を供給する
- ・間断かん水：水の出し入れを繰り返す

○中干し



茎数確保のため、水深 2～3cm の浅水管理で分けつの発生を促しましょう。

有効分けつを確保することは重要ですが、多すぎると養分供給が追いつかず、茎が細く倒伏につながりやすくなります。また、過剰分けつは、受光態勢の悪化による下葉枯れや登熟歩合の低下を招きますので、過剰分けつを抑制しましょう。

ガスの発生が多いほ場では、一時落水してイネの根に酸素を供給し、その後間断かん水を行いましょう。

目標茎数を確保したら中干しを開始し、遅くても幼穂形成期（幼穂長 1 mm程度）までに終わるよう計画的に行いましょう。

品種別の有効茎数（穂数）の目安

品種	m <sup>2</sup> あたり茎数 (本/m <sup>2</sup> )	1株あたり茎数(本)		
		50株植え	60株植え	70株植え
ひとめぼれ	410～460	27～30	23～25	19～22
ササニシキ	480～510	32～34	26～28	23～24
つや姫	430～470	28～31	24～26	20～20
だて正夢	350～400	23～27	19～22	17～19
金のいぶき	440～490	29～32	24～27	21～23
つきあかり	310～350	20～23	17～19	15～17

(2) 病害虫防除

◇いもち病対策

**補植用残苗の放置が見られます！！**

**残苗は本田でのいもち病の発生源となるので早急に処分しましょう！**

直播栽培では移植栽培で使用されている箱処理剤が使用できません。いもち病対策の種子処理（塗抹処理）を行っていない場合は、水面施用剤を防除適期（6月末～7月初旬）に散布しましょう。

◇イネミズソウムシ対策

例年発生が見られるほ場や箱施用剤で防除を行ったほ場でも、要防除密度を参考にして、必要に応じて茎葉散布剤による防除を実施しましょう。

要防除密度は、侵入盛期の成虫密度（畦畔際2m程度）：100 株当たり140頭です。

※晩期栽培の場合は70頭

(3) 雑草防除

本田内のノビエやイヌホタルイ等は斑点米カメムシ類を呼び寄せるので、除草に努めましょう。

※環境保全米では使用できる除草剤が限定されています。残草してしまった場合は、まずJAにご相談ください。

東北地方の向こう1か月の天候の見通し(6/13~7/12)

(2026年6月11日発表) 仙台管区气象台

暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

平均気温 低 20 並 30 高 50% 高い見込み  
降水量 少 20 並 40 多 40% 平年並か多い見込み  
日照時間 少 30 並 40 多 30% ほぼ平年並の見込み

### 農作業前の熱中症対策

#### ✓暑熱順化

暑熱順化とは、体が暑さに慣れること。  
ストレッチやウォーキング、お風呂などで  
少しずつ暑さに慣れましょう！



#### ✓プレクーリング

農作業中の体温上昇を抑制するために、  
作業を始める直前に身体を冷やしましょう！  
冷たい飲み物や冷やしたタオルが効果的！



### 農作業中の熱中症対策

#### ✓こまめな休憩と水分・塩分補給

20分おきに休憩し、のどが渇いていなくても  
毎回コップ1~2杯以上を目安に水分補給をしましょう！  
微細な氷の粒が入ったアイスラリーや経口補水液がおすすめ！



#### ✓単独作業は避ける

熱中症になってしまった際、早期発見・  
対処が大切。単独で作業する場合も、  
家族や従業員が定期的に確認しましょう！



#### ✓熱中症対策アイテムの活用

ファン付きウェアやネッククーラー等を活用。  
ファン付きウェアは、濡らしたインナーを  
内側に着用すると効果的！



3月1日~6月30日は「春の農作業安全運動」期間です。  
余裕をもった作業で農作業事故を防ぎましょう。  
6月~8月は「農薬危害被害防止運動」期間です。  
農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。